

金沢表具

歴史と特色

表装ともいわれる表具は、仏教の伝来とともに中国より伝わり、経巻の表装や礼拝用仏画像の掛軸として始められたものが原型とされている。金沢表具の由来は明らかでないが、仏教の普及や茶道の興隆などと深くかかわり合いながら発展し、藩政時代には御用表具師がいた記録もあり、当時から京表具、江戸表具と並び全国に知られていた。現在は、金沢市を中心に古い掛軸等の文化財の修復にもたずさわる等、高度な技術を誇っている。

作風は、京表具の流れをくみ、百万石文化を反映してどっしりとした渋い仕上がりが多く、寸法は金沢の町家に合せ、京寸法より短かめである。

材料の裂地は京都西陣、和紙は美濃紙、大和紙等を使用し、消費者から注文を受け生産している。

历史和特色

装裱是与佛教一同从中国传来，开始时是用于经卷的表装和礼拜用佛画像的挂轴。随着佛教的普及以及茶道的兴起，金泽装裱与其密切相关并同时得到发展。与京装裱和江户装裱相提并列广为人知。现在，多用于文化遗产的修复，同时也接受预约订单进行生产。

情報 资讯

主な生産地(主要产地)	金沢市(金泽市)
主な製品名(主要产品名)	掛軸、屏風、和本(挂轴、屏风、线装书)
主な生産者(主要生产者)	金沢美術表装協同組合(金泽美术装饰协同组合) 〒920-0981 金沢市片町1丁目3-13(金泽市片町1丁目3-13) TEL (076)260-6800 石川県表具内装協同組合(石川县装裱内装协同组合) 〒920-0064 金沢市南新保町132-1(金泽市南新保町132-1) TEL (076)237-5899

金沢装裱

歴史と特色

和傘は中国から伝えられた天蓋式絹傘と平安時代に長柄をつけて貴人にさしかけた菅笠から変化したものである。江戸時代に入って紙・竹細工の進歩と都市生活の増大に伴って都市部を中心に発達し、江戸中期頃には現在の開閉自在な傘が作られるようになった。

明治・大正時代の最盛期には、金沢に118軒の傘屋があり、金沢傘の名で県内外に売られていた。しかし、昭和30年頃以降、洋傘が普及し、和傘の製造は激減した。

原料は、かつて金沢周辺に群生していた孟宗竹と五箇山の楮を使い、傘の中心部に和紙を4重に張るとともに周辺部に糸を2~3重に張り、破損しやすい部分を補強するなど、他の和傘に比べて丈夫であることが特徴である。なお金沢和傘の製造は紙の乾燥に適した温度、湿度の3月に集中している。

历史和特色

和伞诞生于江户时代，在明治、大正年间最为兴盛的时期，金泽就有118家伞店。原料是使用当地的孟宗竹和葡蟠，中心部分贴上四层和纸，周边部分再贴上两三层丝线起加强作用。和伞的制造是在温度和湿度比较适合纸加工的3月进行。

情報 资讯

主な生産地(主要产地)	金沢市(金泽市)
主な製品名(主要产品名)	番傘、蛇の目傘、紅葉傘(番伞、蛇目伞、红叶伞)
主な生産者(主要生产者)	松田傘・ちようちん店(松田伞・提灯店) 〒921-8023 金沢市千日町7-4(金泽市千日町7-4) TEL (076)241-2853

金沢和傘

金沢和傘